

S F

今求め ア開発 第37回> くシリーズ連載 るキ

SNSを活用したキャリア開発

はじまり

なネットワークを築くことで、自らのスキル に活用していますか? これまで私は数多くの人とつながり、 私の答えはYESです。 みなさんは、 ネットワー クをキャリア 様 開

のネットワークづくりをサポートしてくれた らのことについてお話したいと思います。 どのような役割を果たしてきたのか、 そこで、これまで私がどのようにネットワー の場だと感じているからです。 との出会い、交流こそが、何にも勝る修練 アップに取り組んできました。それは、人 してきたのか、その活動のなかでSNSが クを築き、それをどうキャリア開発に活用 ・システム(以下、「SNS」)でした。 ルこそがソーシャル・ネットワーキン そして、こ

> 的ネッ ウィキペディアによれば、SNSとは社会 とだけ解説します。 W 人と人とのつながりを促進、 するサービスのことであり、 方もいらっしゃると思いますので、 ebサイトと言えます トワークをインターネット上で構築 オンライン百科事典の 端的に言えば サポートする ちょっ

フォーラムKGPMとの出会い

いという事実でした。

自分自身が参加者同士の話についていけな

私は行政評価の担当をしており、 修練の場 でKGPMに入会することになりました。 石原俊彦教授が主宰を務めています。 を務めていた関西学院大学専門職大学院 なネットワークで、山形市の外部評価委員長 治体職員の生涯学習をサポートする広域的 けは、平成17年のフォーラムKGPM 「KGPM」)への入会でした。 KGPMは自 KGPMの主な活動は定期的なセミナー 人との出 一会い、 -そう感じるようになったきっか 交流こそが、 何にも勝 それがご縁 (以下、 当時

かにはSNSについてあまりご存知でない

その前に、

もしかすると、

みなさんのな

撃が私の心に火を付け、 へと突き動かしていきます。 セミナーに参加しました。 です。平成17年6月、 の開催とメーリングリストによる情報 後藤 好邦 山形市まちづくり推進部都市政策課 私は初めてKGPM 【ごとう よしくに】1972年、山形市生まれ。'94山形市役所入庁。納税課、高齢 ネットワーク活動 その時受けた衝 その衝撃とは、 福祉課、冬季国体室、企画調整課を経 て現職。2009年6月6日、仲間とともに 「東北まちづくりオフサイトミーティング」

交換

員を務める。

ていた私にとっては、ただただ頷きと笑顔 析や将来負担を考慮した事業分析などでし していなかった複式簿記による会計的な分 るとすれば、当時、 レベルなものだったのです。その一例を挙げ の会話は、私のレベルを遥かに超えるハイ した。それくらいKGPMのメンバー同 がある意味自信にもつながっていたわけです をしているつもりでいました。そして、 業担当課の職員に対して適切にアドバイス それまでの私は行政評価の担当として事 その自信がもろくも崩れ去った瞬間で 目先のコスト削減こそが、 自治体ではあまり普及 行革と考え それ



を発足。現在は当ネットワークの運営委

東北まちづくりオフサイトミーティング

http://t-OM.cafe.coocan.jp/

REER



東北OM勉強会における

ネットワーク活動の意義 東北OMの活動から感じる

動に取り組み始めることになります。

公私両面でネットワークを広げるための活

ができました。これがきっかけとなり、

につながることを、身を持って感じること

あるいは成長しようとする意識の高揚

や交流が自らの活動のふり返りや知識の吸 セミナーへの参加から様々な人との出会い

ワークを創りたい!! 東北で誰もが気楽に入れる身近なネット

て欲しいという気持ちがありました。 を職場の後輩や東北の仲間たちにも味わっ す。その想いのなかには、KGPMの活動 から感じたネットワーク活動の素晴らしさ から仲間と共に立ち上げたネットワークで (以下、「東北OM」)は、そのような想い 東北まちづくりオフサイトミーティング

現在では会員数が580名を擁するまでに 東北〇Mの活動は、その後順調に推移し、 なっています。3年間で実に20倍近くにもな 平成21年6月に28名でスタートを切った

> どです。その点では自治体職員を中心とし ることができました。そこで、この活動から ら多くのことを学び、たくさんの気付きを得 的な役割を果たしてきましたが、その経験か と8割が自治体職員をはじめとした行政関 が一番驚いています。580人の内訳を見る トワークの意義を考えてみたいと思います。 主に自治体職員が組織を超えてつながるネッ るでしょう。私はこの東北OMの活動で中心 た官民の垣根を越えたネットワークとも言え 残り2割が民間企業の社員や学生な

は、少しでもKGPMメンバーに近づける 向に働くことはなく、次回のセミナーまでに 不思議なことに、その衝撃はマイナスの方 ことを痛感させられた時はありません。ただ、

につながりました。このように、KGPM ように研鑚を積みたい、そういった向上心 でごまかすことしかできませんでした。

りました。その状況に発起人である私自身

この時ほど、自分が井の中の蛙であった

この組織を超えたつながりから得られるもの 展し、これまで以上に政策提言力や政策実 これらの活動を通して、東北OMでは各メ があります。第一に定期的な勉強会の開催 装をしていくうえでの大きな武器をネットワ は非常に有益です。言い換えれば、 行力が求められる自治体職員にとっては ンバーはこれらの場を通して講師や他のメン そして「交流の場」を提供しています。 ンバーに「学びの場」や「学び合いの場」、 な情報や知識を得ています。地域主権が進 バーから普段の仕事や活動に活かせる様々 第二にITツールを活用した情報交換です クから得られるということでしょう。 東北OMの活動は大きく分けて2つの柱 理論武

> することができたからだと感じています。 ネットワーク活動を通じて様々な方と交流 考えられるようにもなっています。これも、 なりました。また何事に対しても前向きに 通して、物事を多面的に考えられるように それでもKGPMや東北OMの活動などを すメリットがあると言えます。 私はまだまだ から人財へとメンバーそれぞれの成長を促 知識や意識、モチベーションを高め、人材 人財と言えるほど成長してはおりませんが、

東日本大震災と東北〇Mの活動

日です。 いました。そう、東日本大震災が発生した 者にとって一生忘れられない日になってしま 平成23年3月11日は、 私たち東北に住

ワークの意義を考えてみたいと思います。 思えます。この点からも組織を超えたネッ 一一人ひとりの個としての挑戦だったように 縦社会が抱える組織の限界に対するメンバ す。今、振り返れば、その理由は閉塞した ットの活動へとシフトしていくことになりま ンバー同士が連携し行動を起こすアウトプ 中心の活動でした。それが、震災以降、 報発信、情報提供をメインとしたインプット 災以前、 は大きな転機を迎えることになります。 この東日本大震災により東北OMの活 東北OMの活動はメンバーへの情

多くのマスコミ報道が流されました。そして 政機関の震災対応の遅さに疑問を呈する数 震災直後、国や自治体をはじめとした行

このように組織を超えたネットワーク活動は

知識だけではなく意識をも高めてくれます

人財との交流は、やる気を喚起するため また、他自治体や異業種に属する多くの これに呼応するように、行政に対する不満の 声が住民側からも噴出することになります。 声が住民側からも噴出することになります。 実際、私自身も窓口やSNSなどで「役所 の対応は遅い。」との批判を受けたことが何 度かありました。しかし、国や地域の様々な 利害を調整しながら政策決定しなければなら ない行政機関は、どうしても迅速性に欠け る場合が多く、難しい判断が迫られる震災 対応などは、まさにそのような場面の連続だ ったように思えます。このような状況に対し て、おそらく多くの自治体職員がもどかしさ を感じていたのではないでしょうか。ただし、 組織の判断を超えて自治体職員が何かしら の対応を行うことには問題があります。しか し、その反面、やるべきことはたくさんあり ました。

このようなジレンマのなかで、東北OMのメンバーたちは、オフサイトの活動として、つまり個のつながりのなかで「今、できること」に取り組み始めました。具体的には、メンバー同士のつながりによる物資搬送やボタンティアバスの運行、復興祈念イベントの開催などが挙げられますが、そのいずれもが、開催などが挙げられますが、そのいずれもが、開催などが挙げられますが、そのいずれもが、別速性の欠如が組織としての行政の限界とものが東北OMのような組織を超えた個のものが東北OMのような組織を超えた個のものが東北OMのような組織を超えた個のものが東北OMのような組織を超えた個のものが東北OMのような組織を超えた個のながり、つまりネットワークです。そのこ

大きく成長できるのではないでしょうか。
は実現できない地域全体の利益、つまり公

活動の意義だと感じます。そして、そのよ

うな活動を通して、メンバー一人ひとりが

があることも組織を超えたネットワーク

SNSを活用したネットワークづくり

げていけば良いの?ど、それじゃ、どうやってネットワークを広ど、それじゃ、どうやってネットワークを広

用ですその質問に対する私の答えはSNSの活

メーリングリストやツイッター、フェイスブックといったSNSを積極的に利用することにのため、SNSを積極的に利用することにより、必然的にネットワークは広がるでしょう。しかし、ただ単にSNSをやみ雲に使えば良いというものではありません。その特性を学び、その特性に応じて使い分けることが大切です。

例えばメーリングリストならば、複数の人に対して同時に電子メールを配信するサーに対して同時に電子メールを配信するサービスですので、用途としては特定の話題にだめ、私はKGPMや東北OMなど、同じため、私はKGPMや東北OMなど、同じため、私はKGPMや東北OMなど、同じため、私はKGPMや東北OMなど、同じため、私はKGPMや東北OMなど、同じたがすることで建設的な意見交換を行い、これまでつながりが

とを東北OMの活動が証明していると感じ

また、ツイッターは140文字以内の「ツイート」(tweet)と称される短文を投稿できる情報サービスで、一般的には自分の考えを指したい情報などを短い文章で手軽に発信するツールとして使われています。その発信するツールとして使われています。その発信するツールとして使われています。その特々なイベントのPRツールとして活用し、様々なイベントのPRツールとして活用し、標本なイベントのPRツールとして活用し、原北OMで講演いただいたことがある佐賀県武雄市の樋渡市長とはツイッターを通してつながりを持つことができました。

できます。 私がはまっているSNSはフェイスブックで っているのか、 実名登録制であるため、自分が誰とつなが ービスを行っているミクシィと異なり、原則 SNSと言えるでしょう。また、同様のサ るツイッターとは異なり、双方向性が強い や一方的に相手をフォローすることができ で、管理人が登録を行うメーリングリスト ネット上でのつながりが始まります。その点 う一歩踏み込んだお話をさせていただきます。 す。そこで、フェイスブックについては、も しょうか。しかし、昨今、何と言っても、 いることが理解していただけるのではないで の使用状況からもSNSを活動に活かして フェイスブックは片方がリクエストを送 このようにメーリングリストやツイッター それをもう一方が承認することにより、 より明確に把握することが



被災地で頑張るメンバーとの交流

広がったと思います。

もつながりやすくなり、非常に交友関係が れまで面識のないフェイスブックユーザーと 記載されているため、友人の友人など、こ

感じていた友人を非常に身近に感じること ができるようになりました。 とができず、いろいろな意味で〝遠い〞と 地理的状況や忙しさなどから頻繁に会うこ ことが可能となります。これらの特性から き込みはオンタイムで閲覧することができる アルタイムでつながることができ、そのため フェイスブックでつながっている友人とはリ ため、相手の行動や考えをリアルに感じる さらに、友達としてつながった相手の書

て1年あまりですが、 名ほどまでに広がり、より密接な関係を構 このような状況からフェイスブックを始め 今では友達が700

やり取りが通例となっています。 築することができています。その のネットワーク活動に大きく影響 ながりの広さと密接さが、私自身 じがしませんね。」という言葉の 方の場合には「久しぶりという感 ませんね。」、以前から知っていた の場合は「初めて会った気がし 証拠に、フェイスブックでつなが っている友人と会うと、初対面 したことは容易に察していただけ このフェイスブックを介したつ フェイ

このネットワークの広がりにより、いろいろ 間分野の方とのお付き合いも始まりました 機会が増え、 っています。 な立場の方から幅広くご意見をお聞きする います。また、山形市内で活動している民 った交友関係が、今ではそれ以外にまで広 スブックを始めるまでは自治体職員中心だ しかもその輪は全国規模に拡大して 仕事をするうえで非常に役立

SNSの注意点

また、画面上に実名や経歴等のデータが

感じるでしょう。しかし、決してそうとばか そのことを通じてキャリア開発に取り組んで りは言えません。いろいろな危険性もあり SNSは非常に便利で素晴らしいものだと きました。ここまでの話をお聞きになると ます。その点についても触れておきたいと思 を活用しながらネットワークづくりを行い、 使い方を誤ると大変なことになります。 私はフェイスブックをはじめ様々なSNS SNSは諸刃の剣です

ことがあります。名前も明かさず誹謗中傷 想いをつぶやきました。しかし、それが原 誰でも見ることができるオープンなものだと 因で、他のユーザーから誹謗中傷を受けた ったのが原因です。そのことは素直に反省 いう危機感を私自身が持ち合わせていなか すが、そもそもは、ツイッターのつぶやきは した相手に文句を言いたい気持ちもありま 震災直後、私はツイッターでいろいろな

めて実感した出来事でした。 に自治体職員としての発言の重さをあらた するべき点だと感じています。社会人、特

いくことが求められます。 とモラルを守った上手な使い方を実践して そのことをしっかり認識したうえで、ルール 受けます。その点で、SNSは諸刃の剣です。 そのことを忘れると、大きなしっぺ返しを に自覚しながら使用することが重要です。 にも見られる可能性が常にあることを十分 書き込みや他のユーザーとの交流が第三者 ールや電話でのやり取りと異なり、自分の する必要があります。つまり、1対1のメ ンな場でのやり取りであることを十分認識 以上のように、SNSでの交流はオープ

おわりに

欲しいと感じております。 私自身の新たなネットワークへとつながって やツイッターを通じて知り合うことができ す。そして、そのような方とフェイスブック 少しでもあらわれてくれれば嬉しいかぎりで ットワークに参加してみよう。」という方が り、「フェイスブック始めてみようかな。」「ネ 話してきました。この文章がきっかけとな を通したキャリア開発の考え方についてお 活用したネットワークづくりと、その活動 これまで私の経験を踏まえて、 SNS&

を心よりお待ちしています。 の友達リクエストやツイッターでのフォロー 最後に、みなさんからのフェイスブックで